
日本中国語学会々報

2007年6月

ご挨拶

まずは朗報から。今年度も『中国語学』の刊行に係る助成金の交付が内定しました。本誌の昨年度の実績に対する外部評価の一つの表れと受け止めることができ、まことに喜ばしいことと存じます。ただ、今回は、申請書類を提出した直後の昨年11月末に、「交付が内定した場合、印刷業者との契約は原則として競争入札によることを義務付ける」という、昨年まではなかった通達が学術振興会から届き、事務局としては予期せぬ苦慮を強いられました。その顛末のご報告にすこしばかりお付き合いください。

競争入札そのものに異議を唱えるものではありません。国民の税金で賄われている助成金が適性に執行されなければならず、そのために競争入札の制度を適用することが妥当な施策の一つであることは十分に理解しています。ただ、如何せん、求められている入札の手続きは、まことに本格的であり、プロフェッショナルです。上記の通達と同封されたマニュアルに「工事」や「各省庁における競争契約」云々の文言が見られることから窺えるように、そこには、ダム建設や架橋工事のような公共事業に課せられる入札業務とほぼ同等の手順が求められています。入札の公告もHP等による広範囲な公表が義務付けられています。この通達が届いた11月末と言えば、すでに翌年度の『中国語学』の投稿期日も公表済みであり、それに連動して編集作業の日程の骨格もほぼ例年通りに確定しています。その段階で、既定のスケジュールのなかに、この入念な一連の入札業務を割り込ませることが、素人集団の事務局にどれほどの時間的かつ技術的負担をもたらすかはお察し頂けるものと思います（事務局は3人の「局員」から構成されます。大西幹事と宮本幹事、そして私の3人です。それだけです）。

さらに、その負担の大きさにも増して危惧されるのは、学振の規定に従って「最低の価格を提示した者と契約を結んだ場合の誌面の出来映えです。過去にも、確かに安価ではあったけれども編集委員や執筆者からのクレームが続出し、業者の変更を余儀なくされたという経緯があります。学術誌としての精度と品質を保証するには、ただ安ければよいというものでもありません。

さてどうしたものかと頭を抱えた挙句が、幸いにも“車到山前必有路”。交付内定後に複数の業者から提示された直接出版費の見積額が、すべて競争入札を義務付ける学振の基準額を下回ったため、件の競争入札には及ばずという結果に落ち着きました。

今回はこのように事無きを得ましたが、今後の申請には相応の心構えと周到な準備が必要になりそうです。言うまでもないことですが、我々はよりよい刊行のために助成を求めるのであって、助成を得るために刊行するものではありません。今後本学会が刊行助成に対してどのような方針を選ぶにせよ、この基本的な認識に揺れがあってはなりません。

なにかにつけて「安い」「早い」「多い」が優先される昨今の社会情勢と折り合いながら、学術団体が長年培ってきた伝統と資質と自立性を維持し、向上させていくことはなかなかむずかしく、今後はますますむずかしくなるということ、柄にもなくつくづく感じる今日この頃です。その一言が言いたさに、愚痴ともボヤキともつかない長々しい「ご挨拶」になってしまいました。申し訳ございません。ため息をつくのはこれくらいにして、残り1年の職務に専心したいと存じます。昨年度同様、何卒お力添え、ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

2007年5月20日 日本中国語学会会長 木村英樹

会議報告

■ 2007年度第1回『中国語学254号』編集委員会

日時:2006年3月24日(土)午後1時~5時30分 場所:太田編集委員長宅
出席者:太田齋(委員長);井上優、小野秀樹、木津祐子(以上委員)(欠席:沈国威(委員))

【議事】

1. 『中国語学』254号投稿状況
投稿総数は30編であったが、うち1編は消印が締め切り後であったため不受理とし、合計29編を受理とした。(参考:過去5年間の投稿数 249号(41編)、250号(32編)、251号(39編)、252号(29編)、253号(45編))
2. 『中国語学』254号依頼原稿
 - ・『中国語学』254号掲載論文の執筆を次の5名に依頼することにした。岩田礼、連金發、C. ラマール(以上2006年全国大会シンポジウム報告者)、石汝杰(前海外特別編集委員)、李艶恵(Yen-hui Audrey Li)(海外特別編集委員)。
 - ・芝田稔氏の追悼文を西川和男氏(関西大学)に依頼することにした。
3. 査読者の決定、査読報告書・査読要領の確認
 - ・投稿論文の査読者について、委員長より示された原案に基づき協議を行い、査読者を決定した。
 - ・今回より、各論文に「論文担当者」(編集委員が担当)を設け、各論文の取り扱いについてよりきめ細かな検討が行えるようにした。
 - ・査読報告書と査読報告書の文面をチェックし、不統一があった部分について修正を加えた。
4. 編集日程の確認
254号の編集日程について確認し、第2回編集委員会を5月12日(土)に開催することにした。
5. 執筆要領の記述の改善
執筆要領の記述(要旨・キーワードの言語、表紙と論文本体の枚数など)になおあいまいな部分があり、ページ数超過やサマリー欠などの混乱が数件あったことが報告された。次回の編集委員会までにあいまいさを解消した改訂案を作成することにした。
6. 海外特別編集員について
現任の海外特別編集員を再任。任期は2年(2007年4月~2009年3月)。
7. 出版助成関連事項の確認
木村会長より「『中国語学』に対する学術振興会の出版助成が採択された場合、欧文率やページ数について種々の規定が適用される」という連絡があり、編集委員会でこれを確認した。
8. 学会奨励賞
253号掲載論文の中から3名の候補者を選出した。次回の編集委員会で、理事会に推薦する受賞候補者を決定することにした。

2007年度第2回『中国語学254号』編集委員会

日時:2007年5月12日(土)午前9時半～12時20分 場所:関西大学岩崎記念館3階
出席者:太田斎(委員長);井上優、小野秀樹、木津祐子、沈国威(以上委員)

【報告事項】

1. 『中国語学』254号依頼原稿の追加

委員長より、尾崎雄二郎氏の追悼文を平田昌司氏(京都大学)に依頼し、承諾を得ている旨が報告された。

【審議事項】

1. 『中国語学』254号投稿論文の審査

『中国語学』254号投稿論文29編の採否について検討し、3編を掲載、3編を部分的な修正の上掲載とした。また、2編について、修正原稿の内容を確認の上掲載を決定することとした。採否の決定に際しては、各論文の論文担当者(編集委員が担当)を中心として、事前に論文と査読結果(判定・素点・コメント)の内容を綿密に検討し、その結果を委員会に持ち寄って、委員全員で各論文に関する情報を十分共有した上で、判断を行った。

2. 査読報告書の問題点

査読報告書の「判定」「素点」「コメント」の間の整合性がとれていないケースがあることが報告され、三者の整合性を保つためのガイドラインを設けるべきであるという合意がなされた。

3. 編集日程

採否通知の手続きとスケジュールを確認した。

4. 学会奨励賞受賞候補の選定

今年度学会奨励賞候補1編を決定し、理事会に推薦することにした。

5. 投稿規程と執筆要領

- ・第1回委員会で指摘された執筆要領のあいまいさを解消する方法について検討した。
- ・投稿規程の改訂について、次のことを検討した。(1)共著の場合、筆頭著者が会員であれば投稿可とする。(2)採否の結果に関係なく査読者のコメントを投稿者に通知する。(3)投稿規程の内容を「投稿条件」「原稿の送付」「査読と採否の決定」などに整理しなおす。(4)執筆要領に書くべきことは投稿規程から削除する。(5)あいまいな表現をなくす。

6. その他

これまでは、編集委員会は年2回の開催であったが、『中国語学』の編集に関する問題全般について議論するための臨時編集委員会を、必要に応じて開催することにした。

■ 2007年度第1回理事会

日時:2007年5月12日午後1時半～6時 場所:関西大学岩崎記念館会議室
出席者:木村英樹(会長);荒川清秀(副会長);岩田礼、遠藤光暁、佐藤晴彦、杉村博文、平田昌司(理事);太田斎(編集委員会委員長);山崎直樹(ウェブリソース委員会委員長);大西克也、宮本徹(幹事)

【報告事項】

1. 一般報告

会長より以下の諸点について報告があった。

(1) 会員動向

会員数:2007年5月7日現在、総会員数1151名(賛助会員を除く。内訳:顧問6名、名誉会員26名、海外会員24名、通常会員1095名。またネット会員は124名)、賛助会員21社。
会員数の動向:昨年度の全国大会終了以降、入会者31名(うち海外会員2名、また4月以降8名)、退会者20名(うち4月以降1名)、ご逝去3名。

(2) 役員・委員等の異動

- ・ 現任の海外特別編集委員を再任し委嘱状を送付した。
- ・ 慶谷壽信・榎本英雄両会員が4月1日付で顧問に就任した。
- ・ 名誉会員候補者の推挙を依頼した。
- ・ 今年度の支部代表が以下のように決定した。

北海道	黒坂満輝評議員(北海道文教大)【留任】
東北	花登正宏評議員(東北大)【新任】
関東	佐藤富士雄評議員(中央大)【留任】
北陸	大滝幸子評議員(金沢大)【留任】
東海	鵜殿倫次評議員(愛知県立大)【留任】
関西	岩本真理評議員(大阪市大)【留任】
中国	小川泰生会員(広島大)【新任】
四国	増野仁評議員(松山大)【留任】
九州	佐藤昭評議員(北九州市大)【留任】

(3) 支部例会関連

今年度の例会世話人と開催数が決定した。

2. 科研費関係報告

昨年度に引き続き、『中国語学』刊行に係る研究成果公開促進費の交付が内定した。

3. 編集委員会報告

- ・ 太田委員長より、査読の進捗状況と奨励賞候補者等について報告があった。
- ・ 『中国語学』執筆要領と『中国語学』投稿規定の改訂について報告があり、了承された。

4. ウェブリソース委員会報告

- ・ 「論文検索システム」は、現在、253号(2006年)のデータを製作中である。
- ・ 学会サイトに「公募情報」のページを新設した。これまでの掲載件数は1件である。
- ・ メールマガジン『電子通讯』は、昨年度は'06年6月から'07年3月まで、月1回計10回配信した。現在の登録者は143人である。

5. 2008年度全国大会開催校の立候補について

会長より、立候補状況について説明があった。

6. 理事選挙について

会長より、選挙管理委員の委嘱について報告があった。

7. その他

会長より、「日本学術振興会賞」受賞候補者の推薦について説明があった。

【審議事項】

1. 予算関係

大西幹事より、2007年度予算の変更について説明があり、了承された。

2. 来年度科研費の申請について

今年度(20年度分)は申請しないこととした。

3. 2007年度第57回全国大会について

準備会から提出された「案内」を検討し、若干の修正を申し入れることとした。

4. 名誉会員の推挙

桜井明治・小林立両会員を名誉会員として推挙することとした。

5. メールマガジン『電子通説』の存続について

ウェブリソース委員会より、メールマガジン『電子通説』の存続に関する諮問があり、当面の発行の継続が了承された。

6. ウェブリソース委員の増員について

ウェブリソース委員会より、HPの校正等を主たる職務とする委員1名の増員が提案され、竹越孝会員に委嘱することが了承された。なお、竹越委員の任期は1年(2007年4月から2008年3月)とする。

7. ウェブリソース委員会より、学会奨励賞受賞論文の学会サイトへの掲載ならびに『中国語学』掲載論文の電子化について以下の提案がなされ、すべて了承された。

(1) 『中国語学』246-251号分(中西印刷担当以前)の奨励賞受賞論文について、画像として電子化し、PDF形式で公開する。

(2) 電子化にあたっては、受賞論文のみではなく、ウェブ上での公開に著者が同意している論文についても、同時にすべて電子化する。(これにより、今後、受賞論文以外の論文をウェブ上で公開するさいに、省力化とコスト削減が図れる。)

(3) 受賞論文以外の論文のウェブ上での公開の時期と方法については、今後、検討を続けていく。

8. その他

会員が逝去した場合及び受賞者候補を学会から推薦する場合の取り扱いについて申し合わせを行なった。

事務局からのお知らせ

訃報

平成18年12月8日、尾崎雄二郎名誉会員が逝去されました。
平成19年2月7日、望月八十吉名誉会員が逝去されました。
平成19年2月10日、芝田稔顧問が逝去されました。
相次ぐ悲報に言葉もございませんが、ここに会員各位にお知らせするとともに、永年にわたって本会ならびに斯学の発展に寄与された先生方の多大な功績とご尽力に感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2007年5月

日本中国語学会会長 木村英樹

■ 名誉会員の推挙

名誉会員のご推挙は、2007年10月10日(水)までに下記事務局宛にお願いします。

2007年度会費納入のお願い

振込用紙を同封しておりますので、本年度会費(一般会員6,000円、ネット会員5,000円)を最寄りの郵便局からお振込下さい。事務運営上、2007年8月末までにご入金くださるよう御協力をお願い致します。

郵便振替 加入者名:日本中国語学会 口座番号:00120-2-536256

なお、これまでの会費を未納の方は振込用紙に記載してありますので、一括してご入金下さいますようお願いいたします。もし記載請求金額が15,000円以上となっておりますら、今年度ご入金いただけませんと、会則《会費納入に関する内規》により除籍となりますのでご注意ください。

第57回全国大会のお知らせ

日本中国語学会第57回全国大会は琉球大学が準備を担当し、10月27日(土)～28日(日)の日程で開催されます。同封の大会ご案内をご覧ください、ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。

第58回全国大会開催校公募のお知らせ

2008年度に開催される第58回全国大会開催校を募集しております。応募される大学は6月30日までに事務局宛にご連絡ください。7月末までに決定し、通知いたします。



選挙公示

選挙管理委員長 町田 茂

2007年10月27日(土)、第57回全国大会会場(琉球大学)において、日本中国語学会「会長及び理事選出方法に関する内規(会則第10条関連)」に基づき理事の選挙を行います。選挙は専用の投票用紙によって4名連記で投票し、即日開票の上、得票数上位8名を候補者とし、その内最高得票者を会長、その他の7名を理事の当選者とするものです。投票用紙ならびに被選挙人名簿は、当日、大会会場受付にて配布いたします。

選挙管理委員会委員

町田茂(委員長);石崎博志、張勤、宮本徹

学会事務局

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文学部中文研究室内

E-mail: secretariat@chilin.jp

URL: <http://www.chilin.jp/>

TEL/FAX:03-5841-4892